

多文化共生に関する意識調査の結果について

1 調査目的

多文化共生に関する区民の意識や実態を把握し、新しい「多文化共生推進プラン」（計画期間：令和9年度～令和13年度）策定の基礎資料とする。

2 調査概要

	外国人意識調査	日本人意識調査
対象	18歳以上の区内在住の外国人 4,000人	18歳以上の区内在住の日本人 2,000人
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出	
調査方法	<配布> 郵送 <回収> 郵送又はWeb回答	
期間	令和7年9月10日～10月1日	
対応言語	やさしい日本語、 英語、中国語（簡体字・繁体字）、 韓国語、ベトナム語、タガログ語、 ネパール語 ※やさしい日本語版と対象者の国籍 に合わせた言語の調査票を同封	日本語
回答数	975件	914件
回答率	24.4%	45.7%

3 調査結果

別添「台東区多文化共生に関する意識調査報告書【概要版】」及び「台東区多文化共生に関する意識調査報告書」のとおり。

4 多文化共生推進プランの策定について

(1) 計画期間

令和9年度から令和13年度まで

(2) 検討体制

台東区多文化共生推進プラン策定委員会及び庁内検討会にて検討する

(3) 予算額（案）

7,716千円

(4) 今後の予定

令和8年	第3回定例会	企画総務委員会（策定状況報告）
	第4回定例会	企画総務委員会（中間のまとめ案報告）
	12月～1月	パブリックコメント実施
令和9年	第1回定例会	企画総務委員会（最終案報告）
	3月	多文化共生推進プラン策定

令和7年度

台東区多文化共生に関する意識調査報告書

【概要版】

令和8年2月

台東区

目次

調査の概要	2
調査結果のポイント	3
1 外国人意識調査	3
2 日本人意識調査	8
3 外国人・日本人 共通設問の比較.....	10
外国人意識調査の結果	13
1 回答者の属性	13
2 ことばについて	15
3 台東区の取組について	16
4 日頃の暮らしについて	17
5 地域の日本人とのかかわりについて.....	19
6 地域での活動について	20
日本人意識調査の結果	21
1 回答者の属性	21
2 地域で暮らす外国人とのかかわりについて.....	22
3 多文化共生のまちづくりについて.....	23
外国人・日本人 共通設問の比較	24
1 台東区の取組について	24
2 日頃の暮らしについて	24
3 地域に暮らす外国人と日本人とのかかわりについて.....	24
4 地域での活動について	25

調査の概要

■調査実施の目的

令和8年1月1日現在、台東区には人口の約9.8%にあたる21,346人の外国人が居住している。台東区では、令和3(2021)年度に「台東区多文化共生推進プラン」を計画期間5年として策定し、これまで様々な多文化共生施策を展開してきたところだが、その間、日本語教育機関認定法の成立や入管法等の改正等、在住外国人を取り巻く状況が変化してきた。こうした状況を踏まえ、さらなる多文化共生の地域づくりを推進するために、今後のプラン策定の基礎資料を得ることを目的として実施した。

■調査実施の概要

下記の方法により「アンケート調査」を実施した。

	外国人意識調査	日本人意識調査
調査地域	台東区全域	
調査期間	令和7年9月10日～10月1日	
調査対象	18歳以上の区内在住の外国人4,000人	18歳以上の区内在住の日本人2,000人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送配布／郵送回収またはWEB回答	
言語	やさしい日本語版と対象者の国籍に合わせた言語別調査票（翻訳版の調査票）を同封	日本語
回答数	975件（内、WEB回答数439件）	914件（内、WEB回答数244件）
回答率	24.4%	45.7%

■調査結果の見方

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。従って、単数回答（1つだけ選ぶ間）においても、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい間）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文中で%の比較は「ポイント」と表記している。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を簡略化している場合がある。
- ・回答者数「n」が30未満の場合、比率が上下しやすいため、本文中では原則として触れていない。
- ・本文中で、各項目と全体平均の%の比較は、原則として差が5ポイント以上あるものについて触れており、「5ポイント以上高い」「5ポイント以上低い」と表記している。例外的に5ポイント未満のものについては「やや高い」「やや低い」と表記している。
- ・本文作成にあたり原則、次のような表現方法を用いた。

例	表現
19.0%～20.9%	約20%
21.0%～23.9%	20%を超える
24.0%～28.9%	20%台半ば

調査結果のポイント

1 外国人意識調査

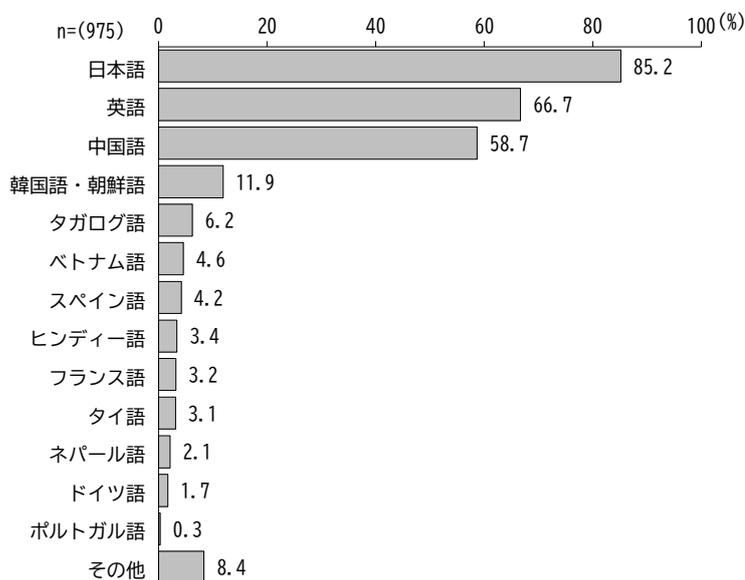
① 外国人の日本語の理解度

Point

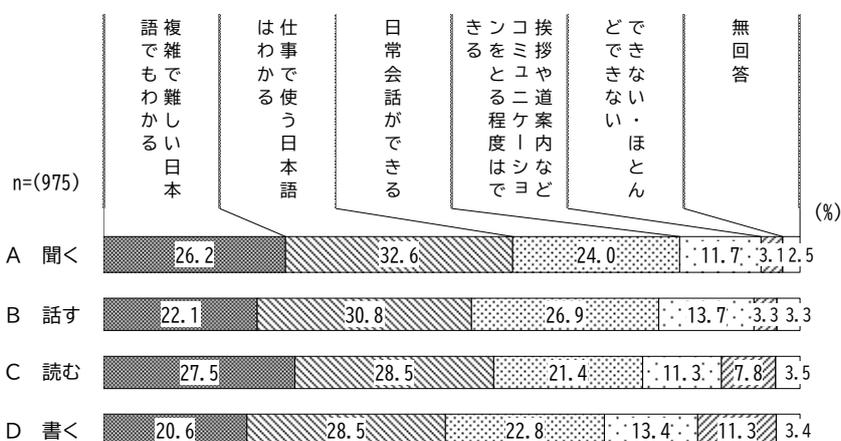
多くの外国人は日本語による日常的なコミュニケーションが可能であると考えられる。

- ・わかる言語は、「日本語」(85.2%)が最も高く、次いで、「英語」(66.7%)、「中国語」(58.7%)となっている。(問15)
- ・「A 聞く」「B 話す」「C 読む」が「日常会話ができる」レベル以上と回答した割合は80%前後、「D 書く」が「日常会話ができる」レベル以上は71.9%となっている。一方、「できない・ほとんどできない」は、「聞く」「話す」は3%台だが、「読む」は7.8%、「書く」は11.3%となっている。(問16)

図表 わかる言語 (複数回答)



図表 日本語の習得度 (単一回答)



② 区の施策

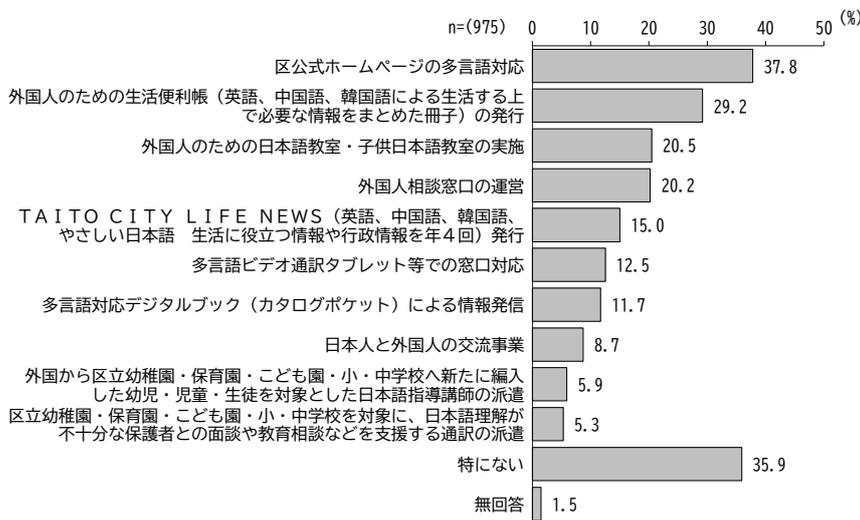
Point

外国人の中では、多文化共生に関するサービスや取組の認知度は低い。
一方で、区の施策に対する満足度(※)はおおむね高い。

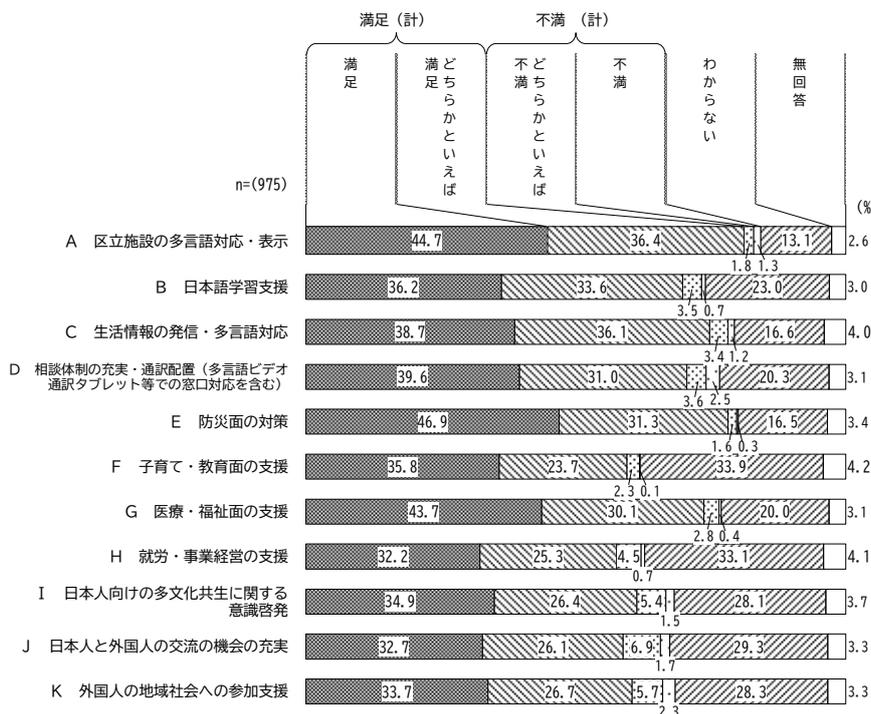
※「満足」と「どちらかといえば満足」の合計値

- ・多文化共生に関するサービスや取組の認知度は、「区公式ホームページの多言語対応」(37.8%)、が最も高く、次いで、「外国人のための生活便利帳の発行」(29.2%)、「外国人のための日本語教室・子供日本語教室の実施」(20.5%)となっており、全般的に低い傾向にある。(問20)
- ・台東区の施策に対する満足度は「A 区立施設の多言語対応・表示」(81.8%)が最も高く、いずれの施策も50%を超えている。また、全ての項目で、満足度は前回から10ポイント以上増加している。(問21)

図表 多文化共生に関するサービスや取組の認知度(複数回答)



図表 台東区の施策に対する満足度(単一回答)



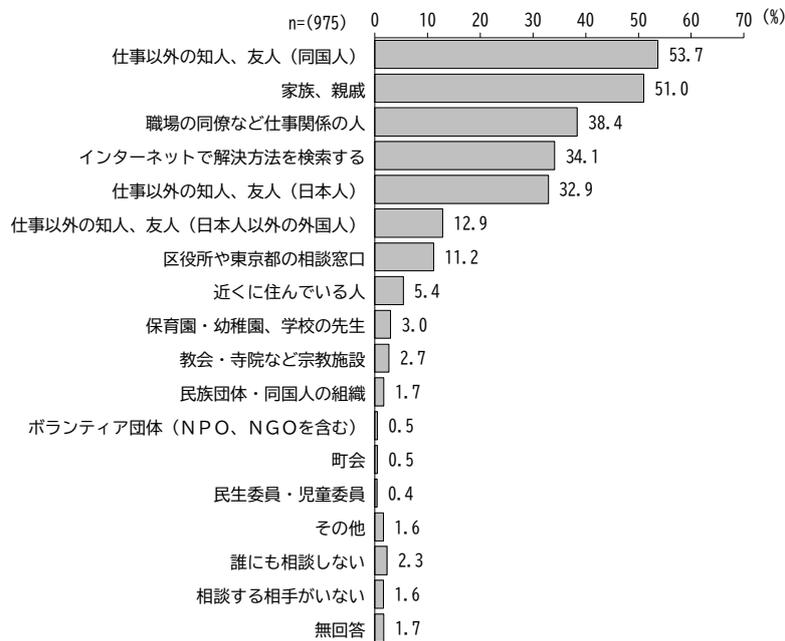
③ 外国人の相談窓口

Point

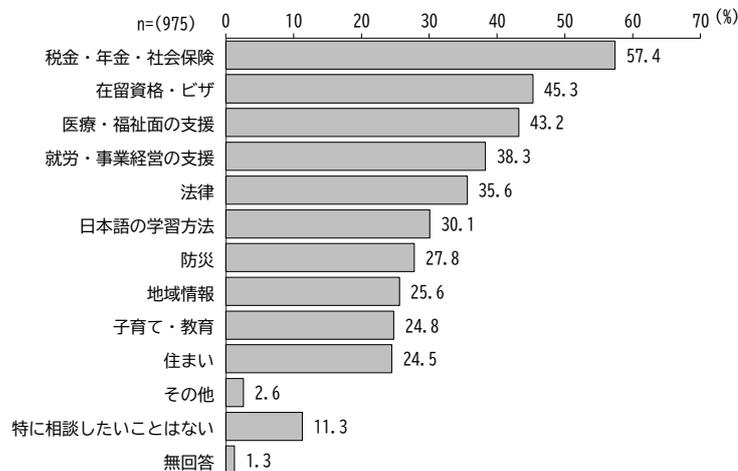
外国人が困ったときの相談先は、身近な人間関係に頼ることが多い。一方で、新たに開設する一元的な外国人相談窓口に相談したいことは、多様なものがあり、一定の需要がある。

- ・生活上の困りごとが生じた際の相談先は、「仕事以外の知人、友人（同国人）」（53.7%）が最も高く、次いで「家族、親戚」（51.0%）、「職場の同僚など仕事関係の人」（38.4%）、「インターネットで解決方法を検索する」（34.1%）、「仕事以外の知人、友人（日本人）」（32.9%）となっている。（問24）
- ・一元的な外国人相談窓口に相談したい内容は、「税金・年金・社会保険」（57.4%）、次いで、「在留資格・ビザ」（45.3%）、「医療・福祉面の支援」（43.2%）、「就労・事業経営の支援」（38.3%）、「法律」（35.6%）となっている。「特に相談したいことはない」は11.3%となっている。（問22）

図表 生活で困ったときの相談先（複数回答）



図表 多言語による一元的な外国人窓口開設後に相談したいこと（複数回答）



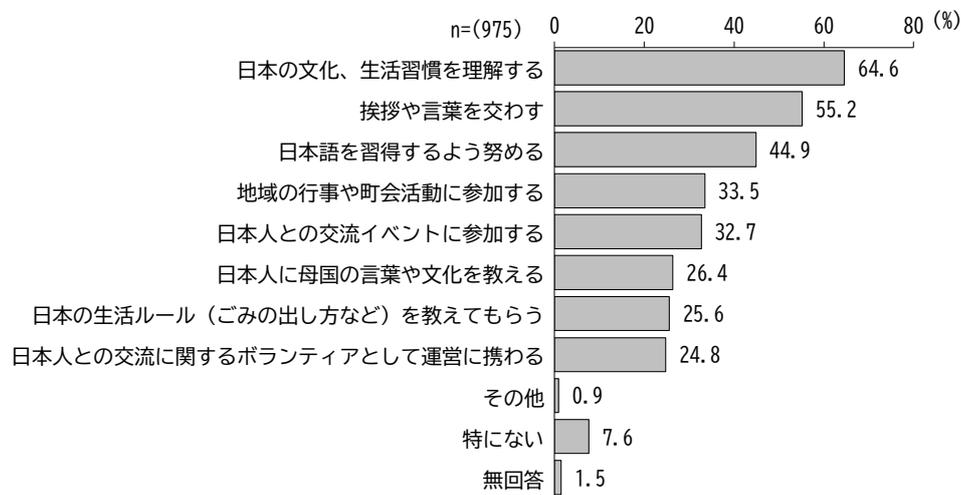
④ 相互理解の促進

Point

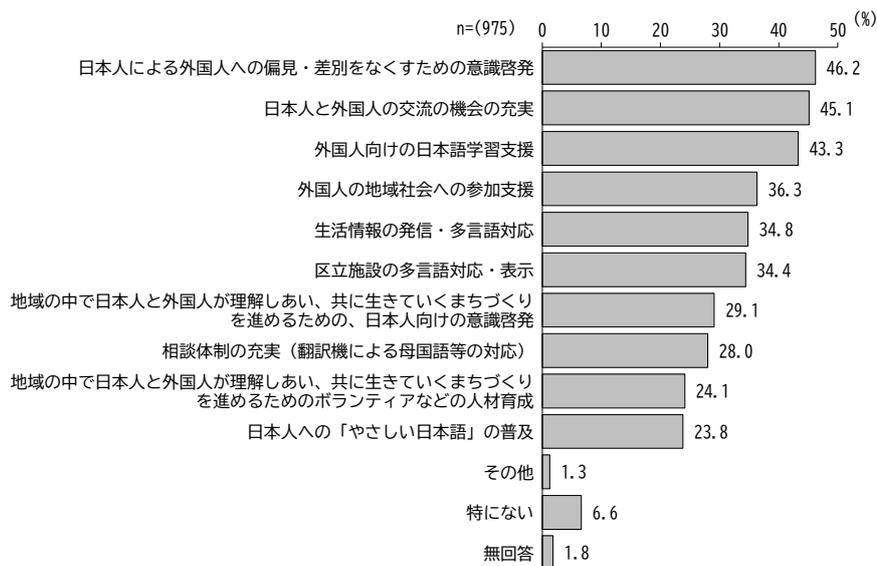
外国人が、日本人との相互理解の促進に向けて自ら行動しようとする意識は高く、その行動を支えるための環境整備や支援の充実が求められている。

- ・相互理解の促進に向け自身が行おうと思うことは、「日本の文化、生活習慣を理解する」(64.6%)が最も高く、「挨拶や言葉を交わす」(55.2%)も半数以上が挙げている。「特にない」は7.6%に留まっている。(問39)
- ・台東区が力を入れるべきだと思うことは、「日本人による外国人への偏見・差別をなくすための意識啓発」(46.2%)が最も高く、次いで、「日本人と外国人の交流の機会の充実」(45.1%)、「外国人向けの日本語学習支援」(43.3%)、「外国人の地域社会への参加支援」(36.3%)となっている。(問40)

図表 地域の中で日本人と外国人が理解し合い、共に生きていくまちづくりを進めるために、自身が行おうと思うこと（複数回答）



図表 台東区が力を入れるべきだと思うこと（複数回答）



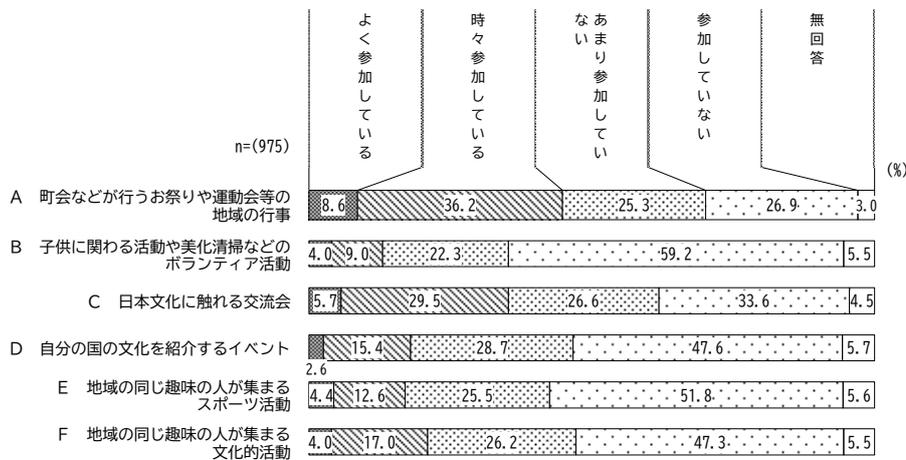
⑤ 地域活動

Point

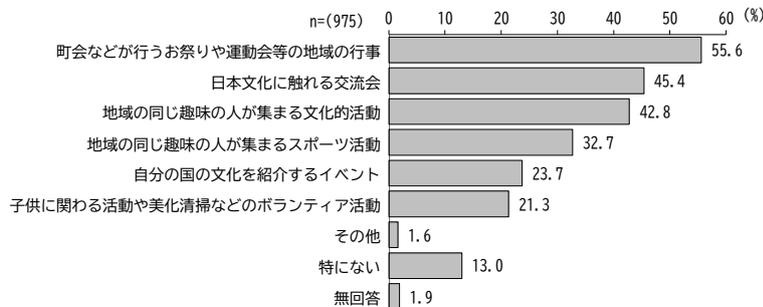
外国人の地域活動への参加は低調であるものの、担い手となり得る潜在的な層は一定程度存在しており、実際の参加に繋げるための環境整備が求められている。

- ・地域活動への参加状況を見ると、お祭り・運動会等や交流会に参加している人が多いが、いずれも50%には満たない。一方で、今後参加したい地域活動は実際の参加状況を上回っており、地域活動への関心自体は一定程度存在している。(問41、42)
- ・活動するときの困りごとは、「参加の仕方がわからない」(44.3%)が最も高く、次いで、「参加する時間がない」(43.7%)、「活動に関する情報が少ない」(40.5%)となっている。(問44)

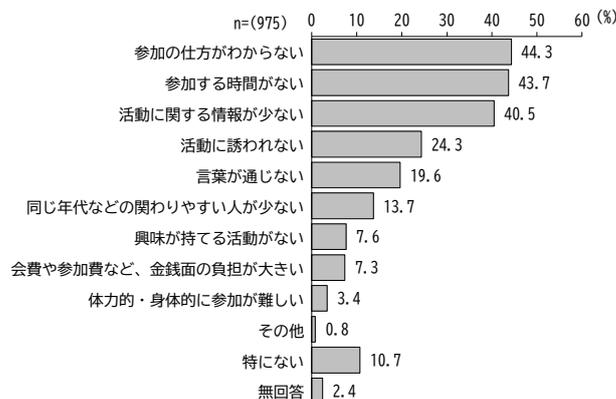
図表 地域活動の参加状況 (単一回答)



図表 今後参加したい地域の活動 (複数回答)



図表 自身が地域で活動するときの困りごと (複数回答)



2 日本人意識調査

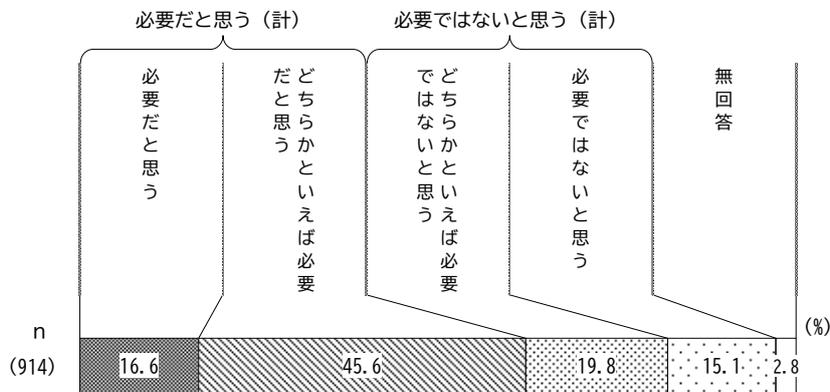
① 外国人が活躍することの必要性

Point

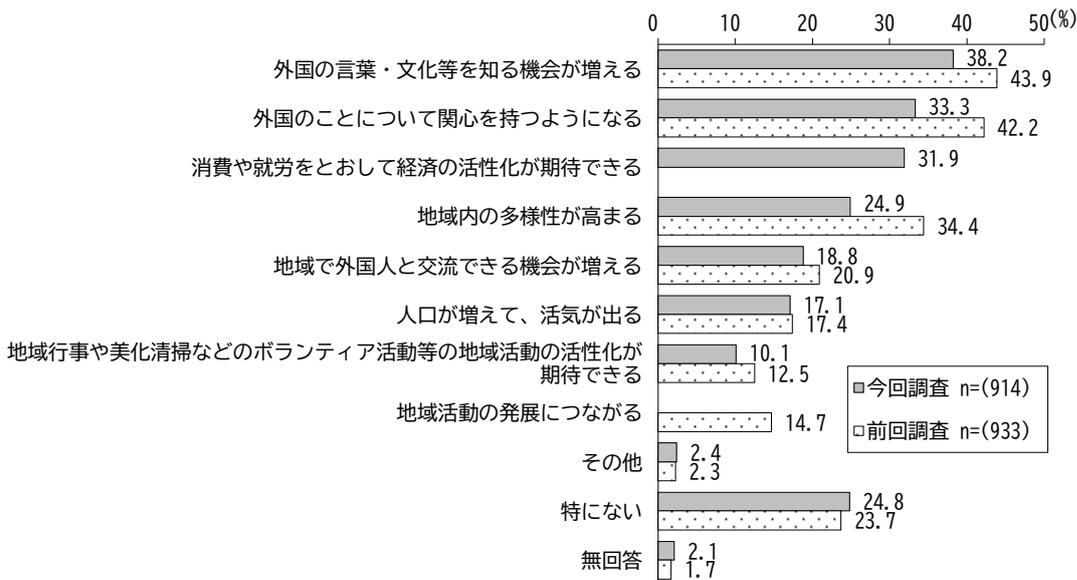
地域で外国人が活躍することの必要性は理解しているものの、受入れに対しては慎重・消極的な意識を持つ傾向がみられる。

- ・地域で外国人が活躍することは必要と考える割合は60%を超えており、外国人の存在や役割について一定の理解が広まっている。また、外国人との交流機会が多いほど、外国人の活躍が必要だと思う割合が高い。(問16)
- ・外国人が増えることにより良くなることは「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」(38.2%)が最も高く、次いで「外国のことについて関心を持つようになる」(33.3%)、「消費や就労をとおして経済の活性化が期待できる」(31.9%)となっている。前回と比較すると多くの項目で割合が低下しており、外国人の受入れに対する前向きな評価は弱まっている。(問17)

図表 今後、地域で外国人が活躍することは必要か（単一回答）



図表 【経年比較】地域に暮らす外国人が増えることにより良くなること（複数回答）



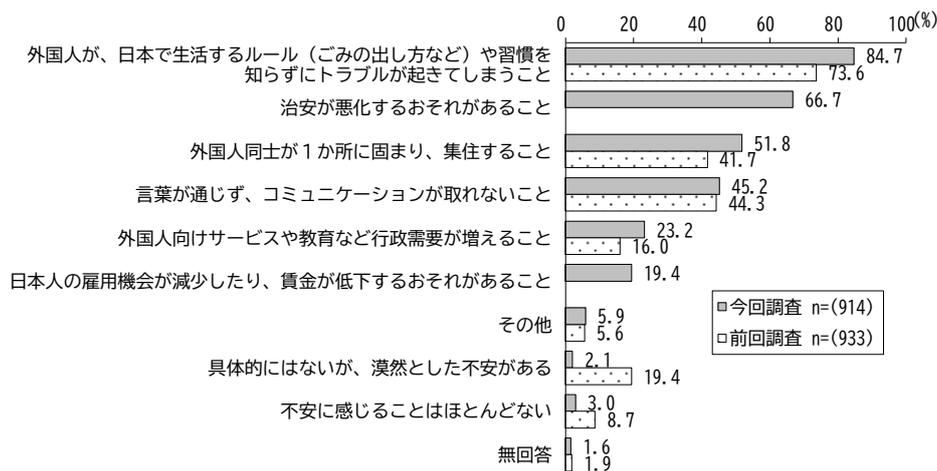
② 外国人が増えることに対する不安

Point

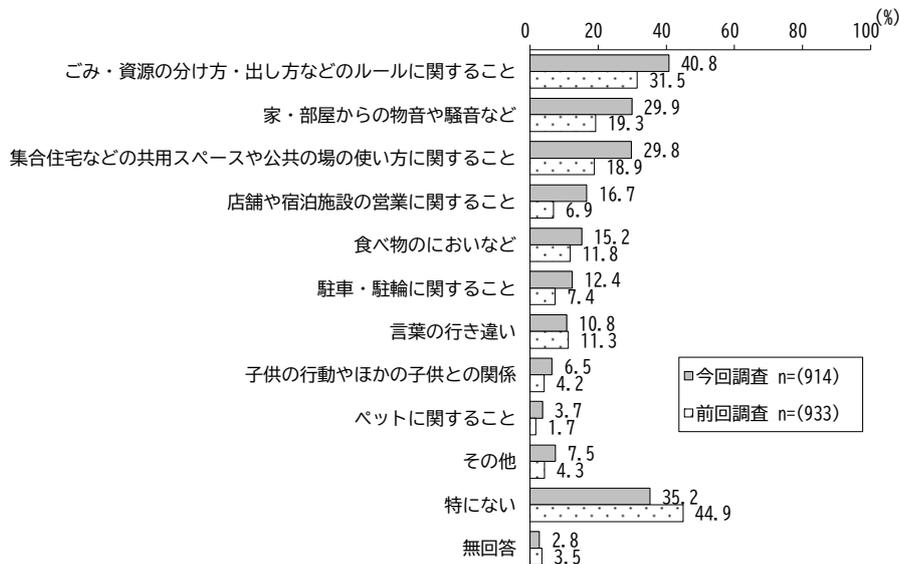
外国人が増えることで心配や不安に感じることを挙げる人は、前回より増加している。一方で、不安などを感じている人と、実際に困った経験を持つ人の割合には差がある。

- 外国人が増えることで心配や不安に感じることは、「外国人が、日本で生活するルール（ごみの出し方など）や習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと」（84.7%）が最も高く、次いで、「治安が悪化するおそれがあること」（66.7%）、「外国人同士が1か所に固まり、集住すること」（51.8%）、となっている。上位3つのうち、今回選択肢に加えた「治安が悪化するおそれがあること」以外の2つは、いずれも前回調査から割合が10ポイント以上増加している。（問18）
- 外国人との関係で困った経験としては、「ごみ・資源の分け方・出し方などのルールに関すること」（40.8%）が最も高く、次いで、「家・部屋からの物音や騒音など」（29.9%）、「集合住宅などの共用スペースや公共の場の使い方に関すること」（29.8%）となっている。外国人に対する不安と実際の困りごとはいずれも前回から増加しているものの、不安などを感じる人と、実際に困った経験を持つ人の割合には差がみられる。（問19）

図表 【経年比較】地域に暮らす外国人が増えることで
心配や不安に感じること（複数回答）



図表 【経年比較】地域に暮らす外国人との関係で困った経験（複数回答）



3 外国人・日本人 共通設問の比較

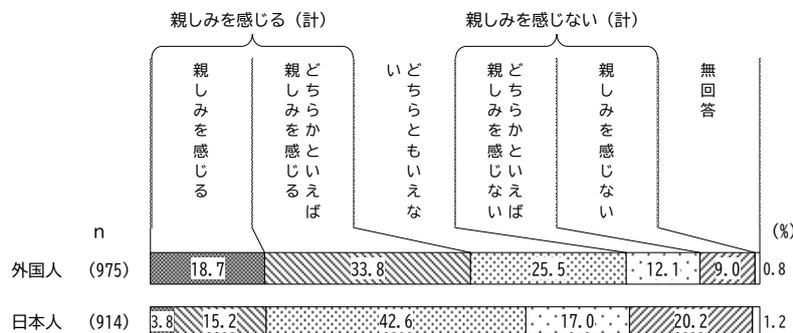
① 相互間の交流意欲

Point

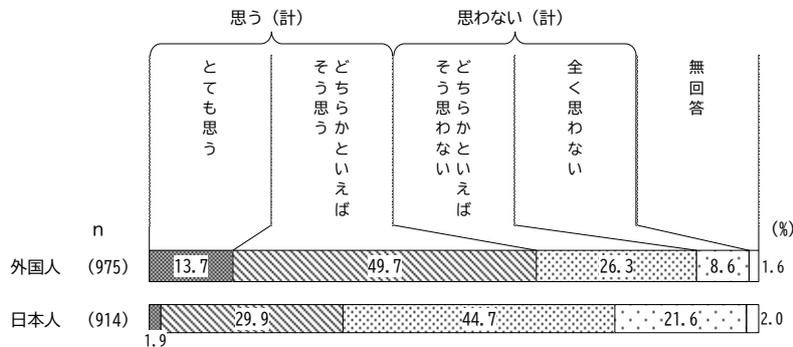
外国人は日本人との高い交流意欲を持つのに対して、日本人は外国人との交流について消極的な傾向がみられる。

・地域における交流に関する共通設問を比較すると、「地域の外国人と日本人の相互の親しみ度合い」（外国人：問33、日本人：問11）、「外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか（外国人：問34、日本人：問12）」、「地域に暮らす外国人と日本人の交流意向」（外国人：問35、日本人：問13）のいずれにおいても、肯定的に回答した割合は、外国人が日本人よりも30～40ポイント以上高くなっており、両者の間に意識の差がみられる。

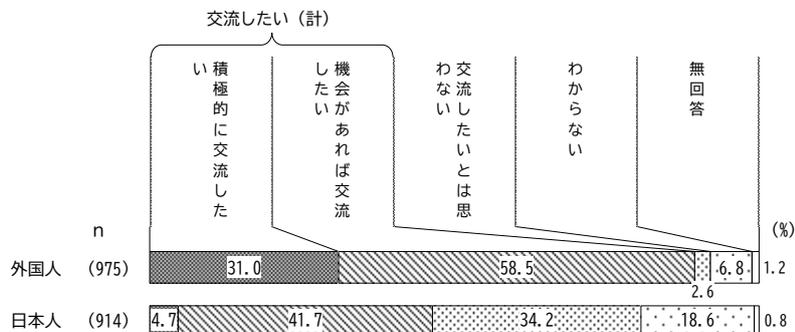
図表 地域の外国人と日本人の相互の親しみ度合（単一回答）



図表 外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか（単一回答）



図表 地域に暮らす外国人と日本人の交流意向（単一回答）



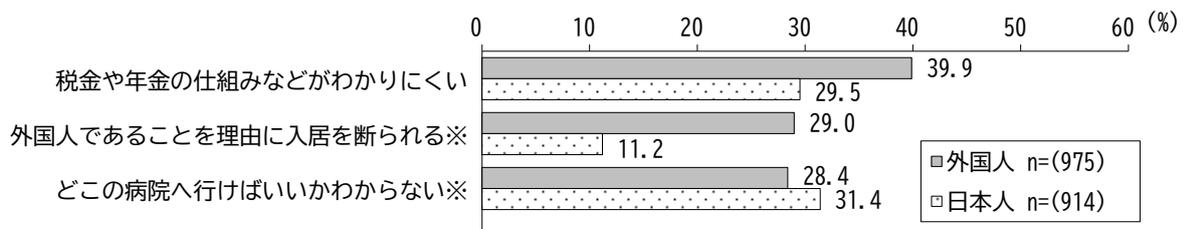
② 日常生活での困りごと

Point

外国人が抱える困りごとについて、
日本人の認識と外国人の実態との間には違いがみられる。

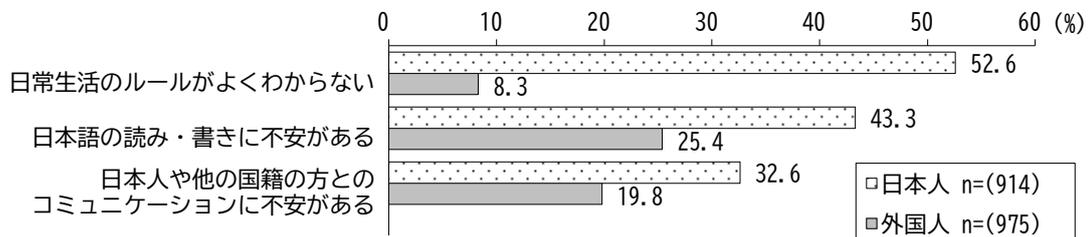
- ・外国人の困りごとは、「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(39.9%)が最も高く、次いで、「外国人であることを理由に入居を断られる」(29.0%)、「どこの病院へ行けばいいかわからない」(28.4%)となっている。(外国人：問23)
- ・日本人が想定する外国人の困りごとは、「日常生活のルールがよくわからない」(52.6%)が最も高く、次いで、「日本語の読み・書きに不安がある」(43.3%)、「日本人や他の国籍の方とのコミュニケーションに不安がある」(32.6%)となっている。(日本人：問20)
- ・日本人が想定する上位3つの困りごとは、外国人が困りごととして挙げる比率は低く、「日常生活のルールがよくわからない」は外国人では8.3%、「日本語の読み・書きに不安がある」は25.4%、「日本人や他の国籍の方とのコミュニケーションに不安がある」は19.8%となっており、日本人の認識と外国人の実態との間には違いがみられる。

図表 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと
(複数回答・外国人上位3位と日本人の回答の比較)



※外国人調査票の「外国人であることを理由に入居を断られる」は日本人調査票の「住まいのこと」、外国人調査票の「どこの病院へ行けばいいかわからない」は日本人調査票の「病院や医療のこと」と比較している。

図表 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと
(複数回答・日本人上位3位と外国人の回答の比較)



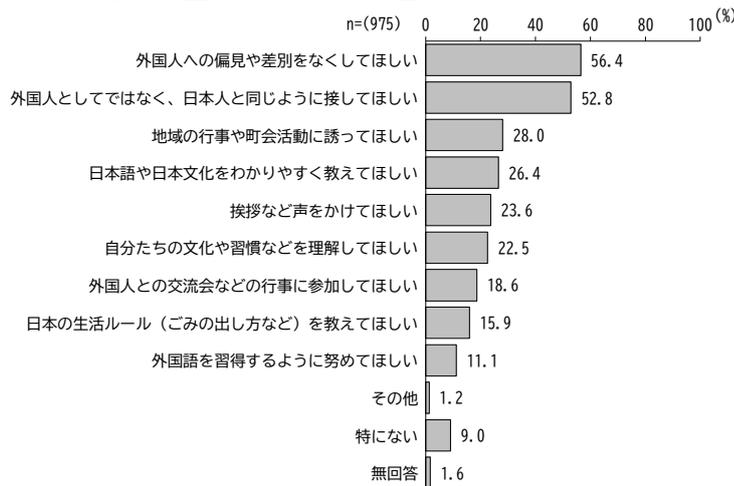
③ 住民相互の理解促進のために相手に求めること

Point

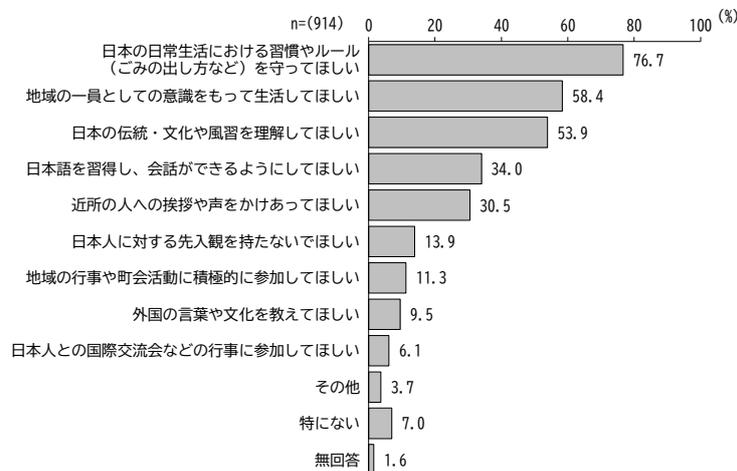
相互理解の促進のために、外国人と日本人が相手に求めることの方向性や内容には違いがあるが、目指すべき地域社会は一致していると考えられる。

- ・外国人が日本人に求めることは、「外国人への偏見や差別をなくしてほしい」(56.4%)が最も高く、「外国人としてではなく、日本人と同じように接してほしい」(52.8%)も半数以上が挙げている。次いで、「地域の行事や町会活動に誘ってほしい」(28.0%)、「日本語や日本文化をわかりやすく教えてほしい」(26.4%)となっている。(外国人：問38)
- ・日本人が外国人に求めることは、「日本の日常生活における習慣やルール(ごみの出し方など)を守ってほしい」(76.7%)が最も高い。次いで、「地域の一員としての意識をもって生活してほしい」(58.4%)、「日本の伝統・文化や風習を理解してほしい」(53.9%)、「日本語を習得し、会話ができるようにしてほしい」(34.0%)、「近所の人への挨拶や声をかけあってほしい」(30.5%)となっている。(日本人：問22)
- ・外国人は、地域に日本人と同様に受け入れてほしいという意向がある一方で、日本人は、外国人に地域の一員としての行動を求める傾向があり、両者が相手に求めることの方向性や内容には差異がある。しかし、外国人、日本人ともに、地域で円滑に生活できることを目指していると考えられる。

図表 (外国人調査) 住民相互の理解のために、日本人に求めること (複数回答)



図表 (日本人調査) 住民相互の理解のために、外国人に求めること (複数回答)

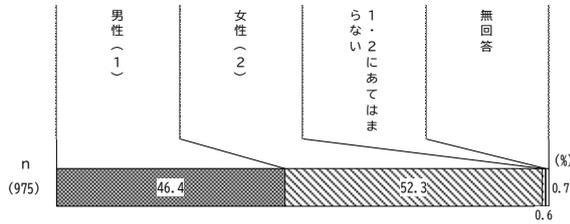


外国人意識調査の結果

1 回答者の属性

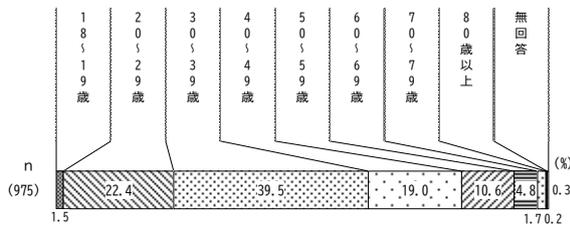
(1) 性別 (単一回答)

「男性」が46.4%、「女性」が52.3%となっている。



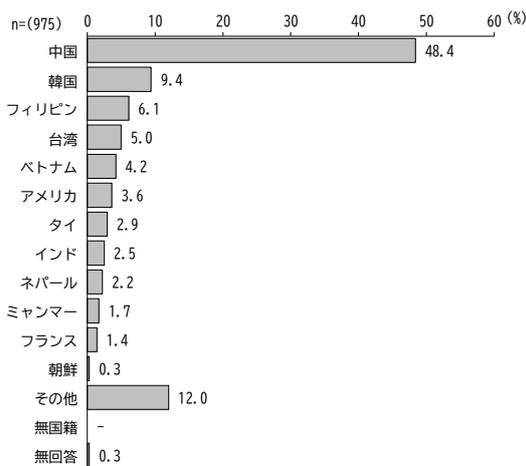
(2) 年齢 (単一回答)

「30~39歳」(39.5%)が最も高い。



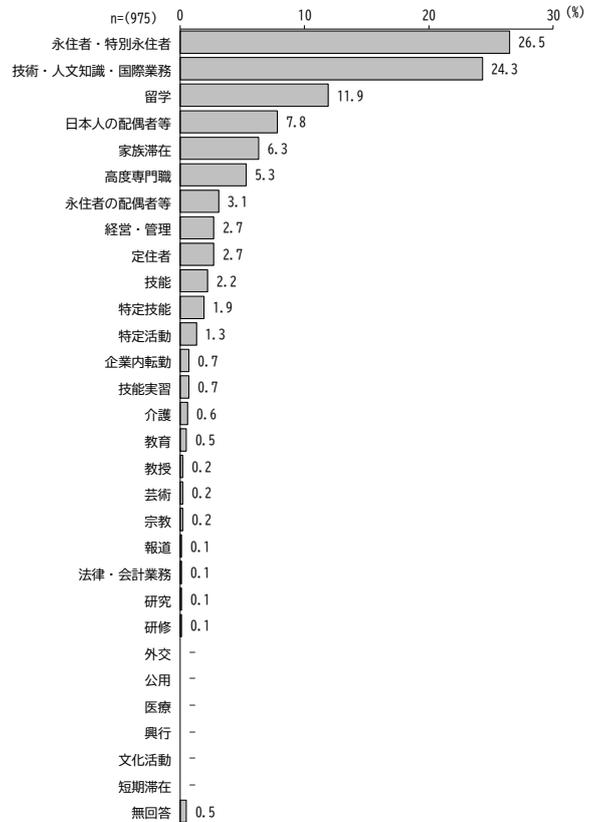
(3) 国籍・出身地域 (単一回答)

「中国」(48.4%)が最も高く、次いで、「韓国」(9.4%)、「フィリピン」(6.1%)となっている。



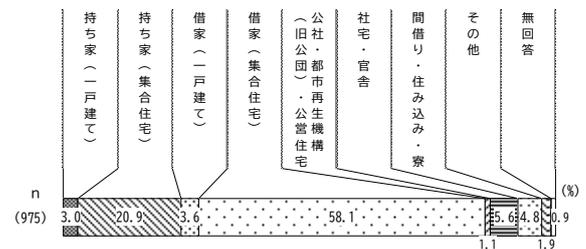
(4) 在留資格 (単一回答)

「永住者・特別永住者」(26.5%)が最も高く、次いで、「技術・人文知識・国際業務」(24.3%)となっている。



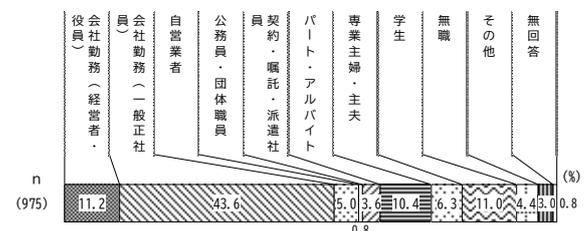
(5) 居住形態 (単一回答)

「借家(集合住宅)」(58.1%)が最も高く、次いで、「持ち家(集合住宅)」(20.9%)となっている。



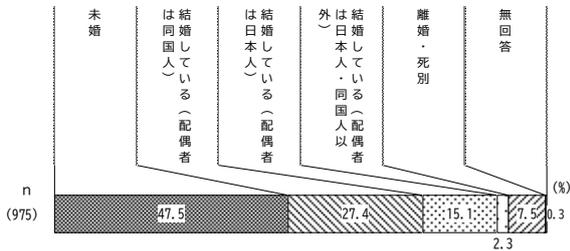
(6) 職業 (単一回答)

「会社勤務(一般正社員)」(43.6%)が最も高く、次いで、「会社勤務(経営者・役員)」(11.2%)となっている。



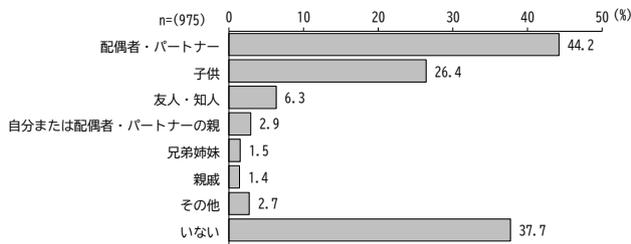
(7) 結婚の有無 (単一回答)

「未婚」(47.5%)が最も高く、次いで、「結婚している(配偶者は同国人)」(27.4%)となっている。



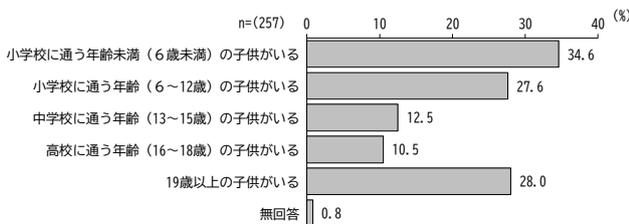
(8) 同居者 (複数回答)

「配偶者・パートナー」(44.2%)が最も高く、次いで、「いない」(37.7%)となっている。



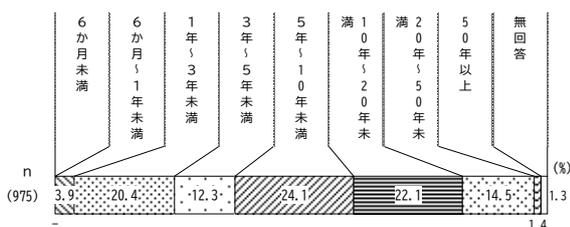
(9) 子供の年齢 (複数回答)

「小学校に通う年齢未満(6歳未満)の子供がいる」(34.6%)が最も高く、次いで、「19歳以上の子供がいる」(28.0%)となっている。



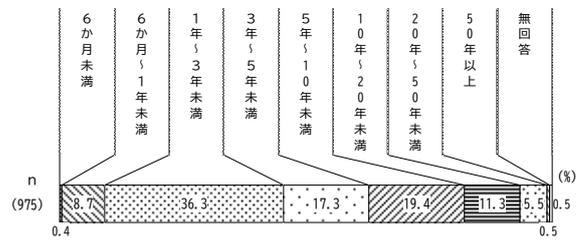
(10) 日本での居住年数 (単一回答)

「5年~10年未満」(24.1%)が最も高く、次いで、「10年~20年未満」(22.1%)となっている。



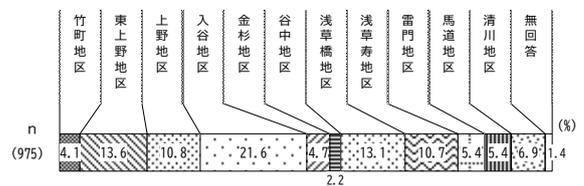
(11) 台東区での居住年数 (単一回答)

「1年~3年未満」(36.3%)が最も高く、次いで、「5年~10年未満」(19.4%)となっている。



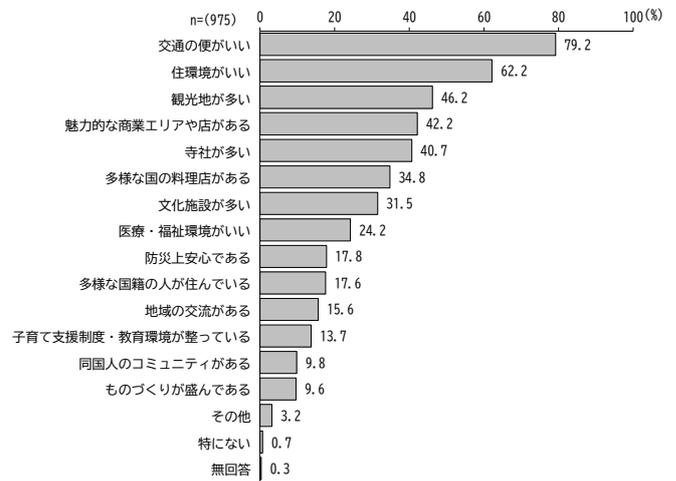
(12) 居住地域 (単一回答)

「入谷地区」(21.6%)が最も高く、次いで、「東上野地区」(13.6%)となっている。



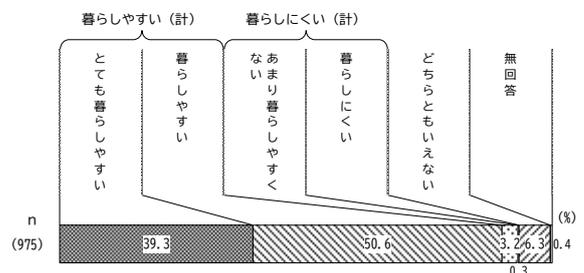
(13) 台東区の魅力 (複数回答)

「交通の便がいい」(79.2%)が最も高く、次いで、「住環境がいい」(62.2%)となっている。



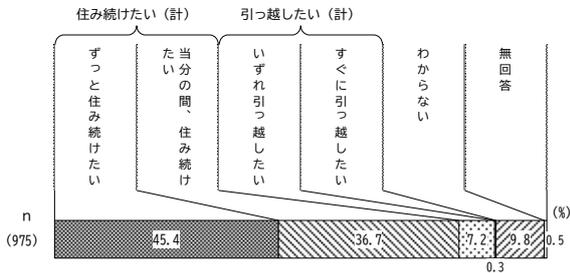
(14) 台東区の暮らしやすさ (単一回答)

「とても暮らしやすい」「暮らしやすい」の合計の割合は89.9%となっている。



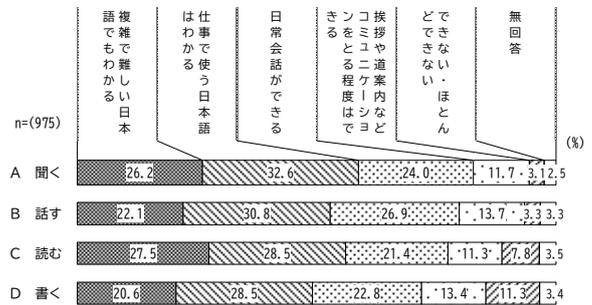
(15) 台東区への定住意向（単一回答）

「ずっと住み続けたい」（45.4%）が最も高く、次いで、「当分の間、住み続けたい」（36.7%）となっている。



(3) 日本語の習得度（単一回答）

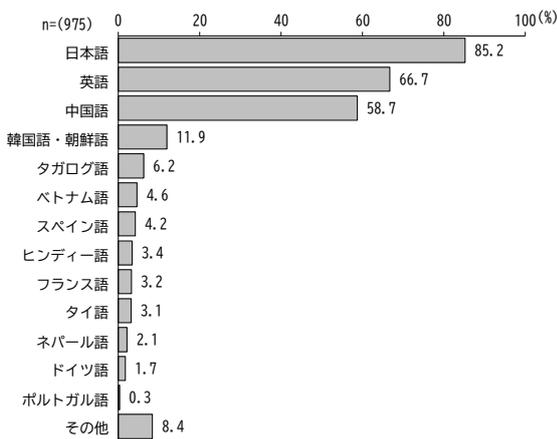
「日常会話ができる」レベル以上の割合は、「A. 聞く」「B. 話す」「C. 読む」で80%前後、「D. 書く」で71.9%となっている。



2 ことばについて

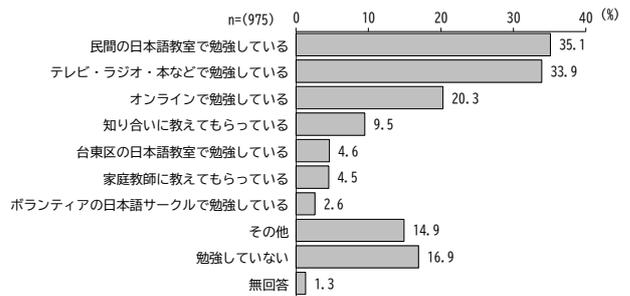
(1) わかる言語（複数回答）

「日本語」（85.2%）が最も高く、次いで、「英語」（66.7%）となっている。



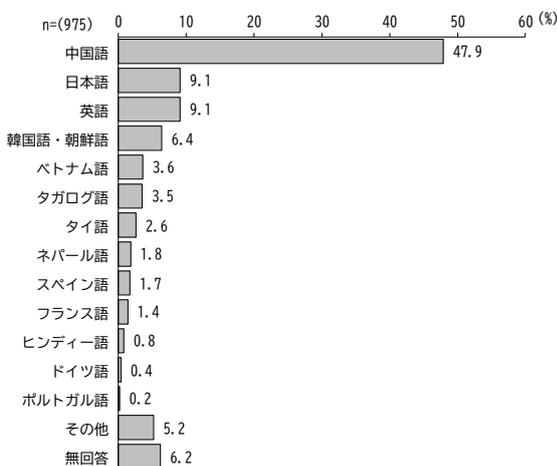
(4) 日本語の学び方（複数回答）

「民間の日本語教室で勉強している」（35.1%）が最も高く、次いで、「テレビ・ラジオ・本などで勉強している」（33.9%）となっている。



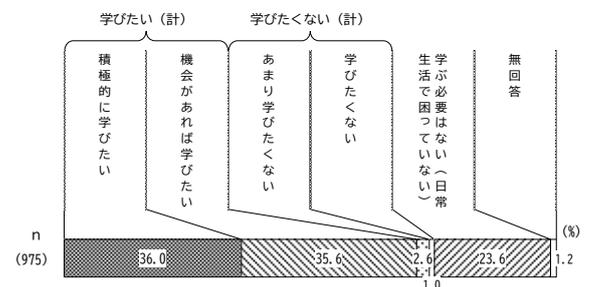
(2) 最も得意な言語（単一回答）

「中国語」（47.9%）が最も高く、次いで、「日本語」「英語」（ともに9.1%）となっている。



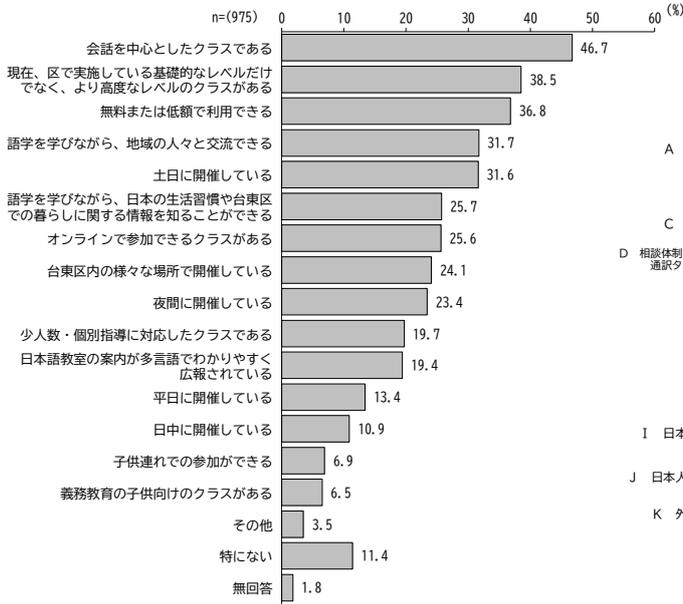
(5) 日本語の学習意欲（単一回答）

「積極的に学びたい」（36.0%）が最も高く、次いで、「機会があれば学びたい」（35.6%）となっている。



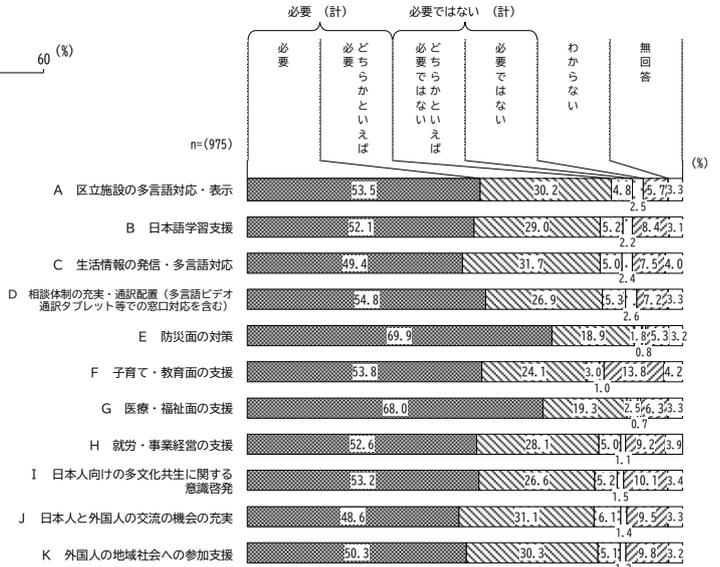
(6) 日本語教室がより利用しやすくなるために重要なこと (複数回答)

「会話を中心としたクラスである」(46.7%) が最も高く、次いで、「現在、区で実施している基礎的なレベルだけでなく、より高度なレベルのクラスがある」(38.5%)となっている。



(2) 台東区の施策に対する必要度 (単一回答)

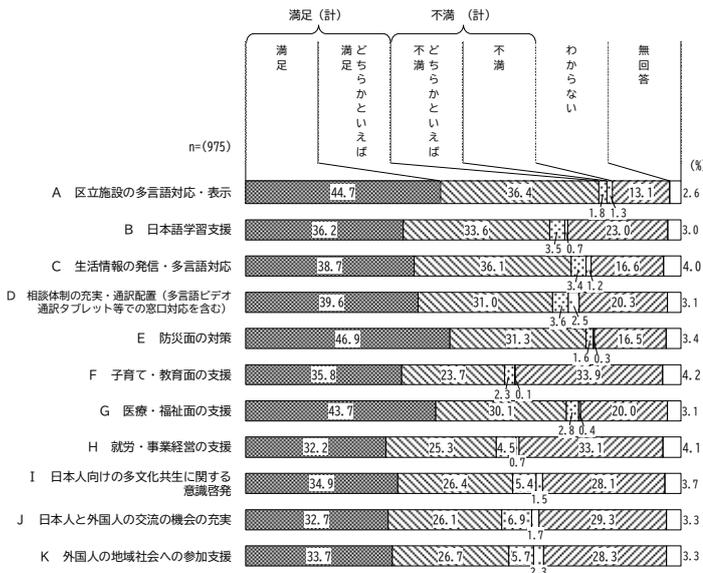
「必要」「どちらかといえば必要」の合計「必要(計)」の割合が最も高い項目は、「E 防災面の対策」(88.8%)となっている。



3 台東区の実践について

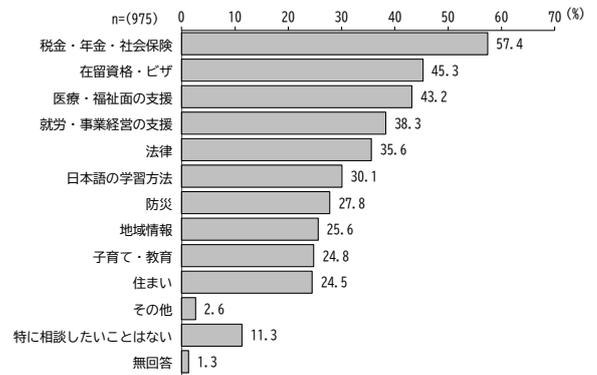
(1) 台東区の施策に対する満足度 (単一回答)

「満足」「どちらかといえば満足」の合計「満足(計)」の割合が最も高い項目は、「A 区立施設の多言語対応・表示」(81.1%)となっている。



(3) 多言語による一元的な外国人窓口開設後に相談したいこと (複数回答)

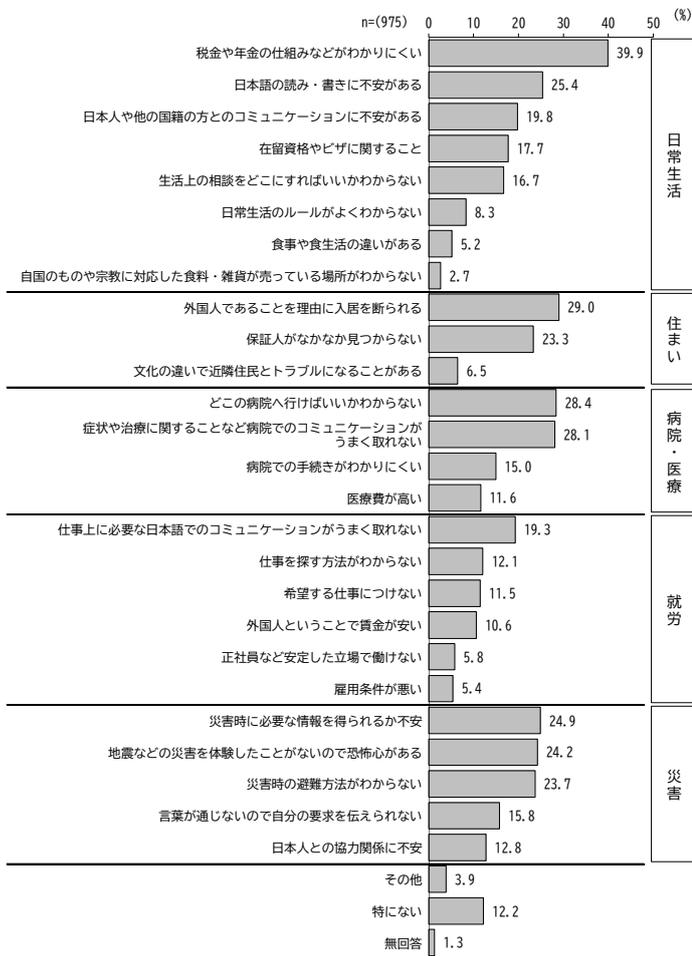
「税金・年金・社会保険」(57.4%)、次いで、「在留資格・ビザ」(45.3%)となっている。



4 日頃の暮らしについて

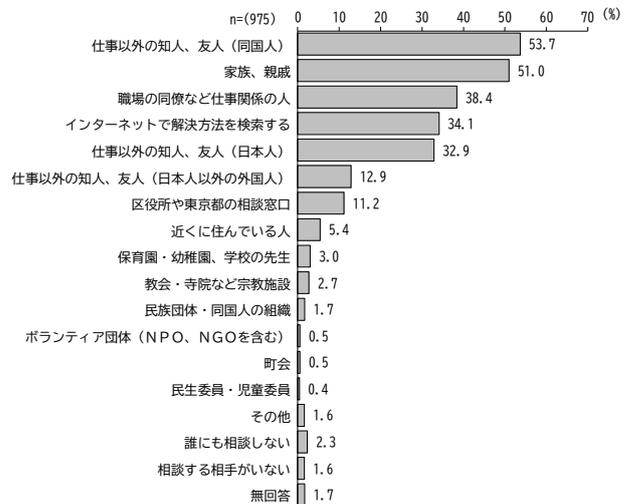
(1) 日本での生活で、困っていることや心配なこと（複数回答）

「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」（39.9%）が最も高く、次いで、「外国人であることを理由に入居を断られる」（29.0%）となっている。



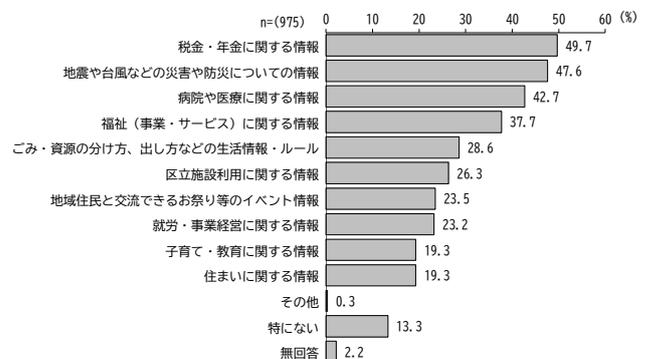
(2) 生活で困ったときの相談先（複数回答）

「仕事以外の知人、友人（同国人）」（53.7%）が最も高く、次いで、「家族、親戚」（51.0%）となっている。



(3) 生活していく上で必要な情報（複数回答）

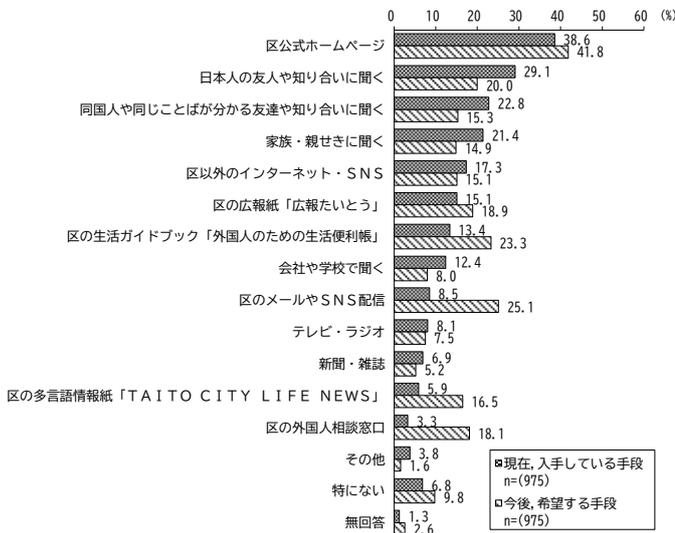
「税金・年金に関する情報」（49.7%）が最も高く、次いで、「地震や台風などの災害や防災についての情報」（47.6%）となっている。



(4) 行政サービスや区からのお知らせ等の入手手段及び今後希望する手段

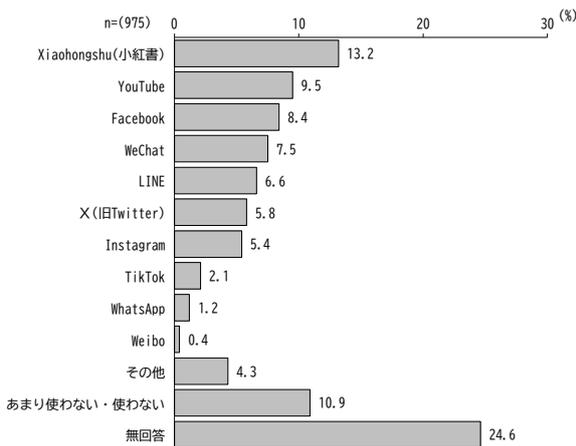
【現在、入手している手段／今後、希望する手段】（複数回答）

現在、入手している手段および今後、希望する手段ともに「区公式ホームページ」が最も高い。



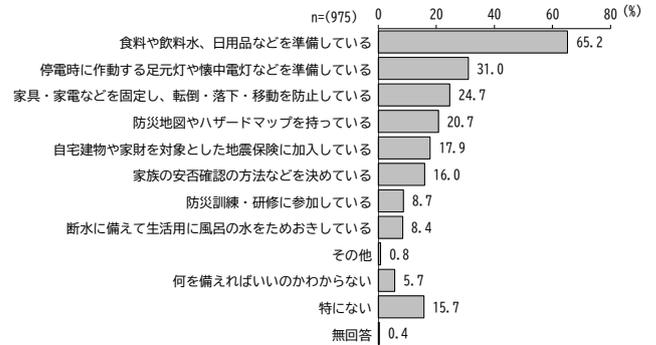
(5) 生活していく上で必要な情報を得るときに最も利用するSNS（単一回答）

「Xiaohongshu（小紅書）」（13.2%）、次いで、「YouTube」（9.5%）となっている。



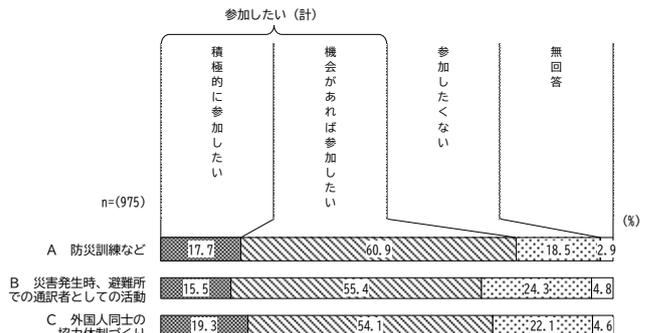
(6) 地震などの災害時の備え（複数回答）

「食料や飲料水、日用品などを準備している」（65.2%）が最も高く、次いで、「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」（31.0%）となっている。



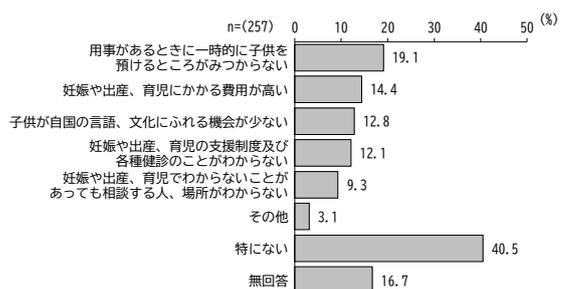
(7) 災害に関する活動への参加意向（単一回答）

全ての項目で「積極的に参加したい」「機会があれば参加したい」の合計「参加したい(計)」は70%台となっている。



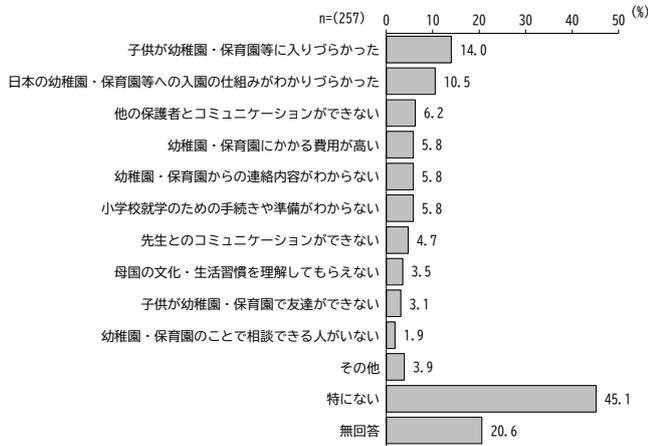
(8) 日本での妊娠や出産、育児で困ったこと（複数回答）

「特にない」が40.5%で最も高いが、具体的な選択肢の中では「用事があるときに一時的に子供を預ける場所が見つからない」（19.1%）が最も高い。



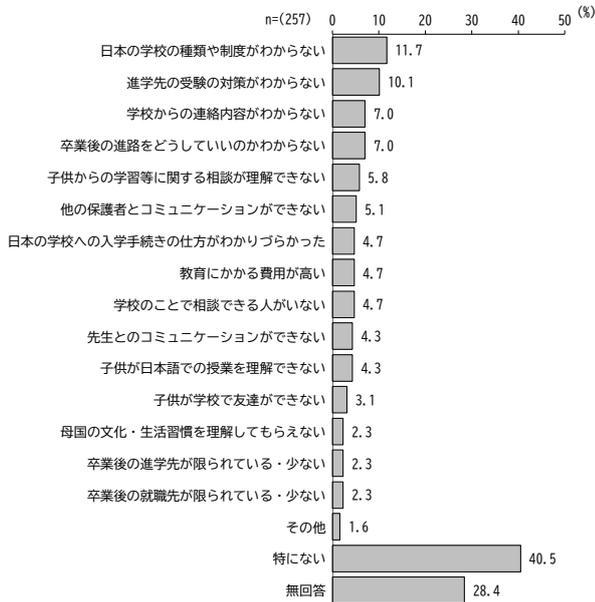
(9) 幼稚園・保育園で困ったこと（複数回答）

「特になし」が45.1%で最も高いが、具体的な選択肢の中では「子供が幼稚園・保育園等に入りづらかった」（14.0%）が最も高い。



(10) 学校で困ったこと（複数回答）

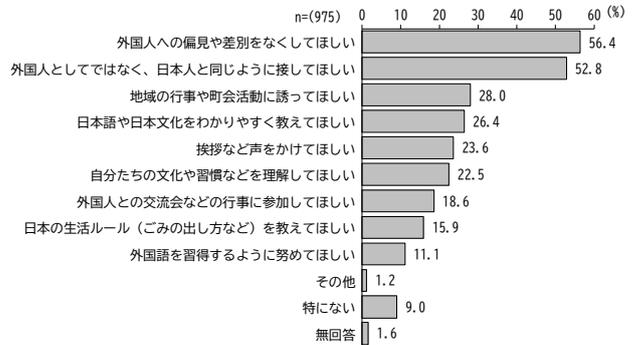
「特になし」が40.5%で最も高いが、具体的な選択肢の中では「日本の学校の種類や制度がわからない」（11.7%）が最も高い。



5 地域の日本人とのかかわりについて

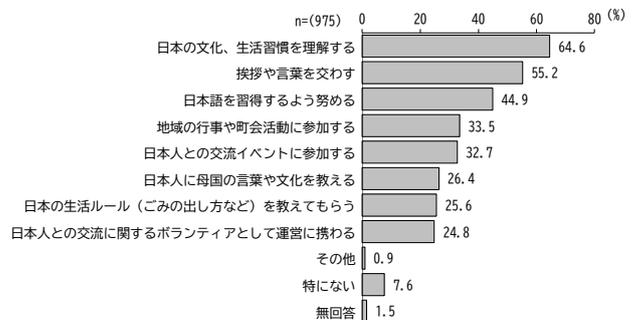
(1) 住民相互の理解のために日本人に求めること（複数回答）

「外国人への偏見や差別をなくしてほしい」（56.4%）が最も高く、次いで、「外国人としてではなく、日本人と同じように接してほしい」（52.8%）となっている。



(2) 地域の中で日本人と外国人が理解しあい、共に生きていくまちづくりを進めるために、自身が行おうと思うこと（複数回答）

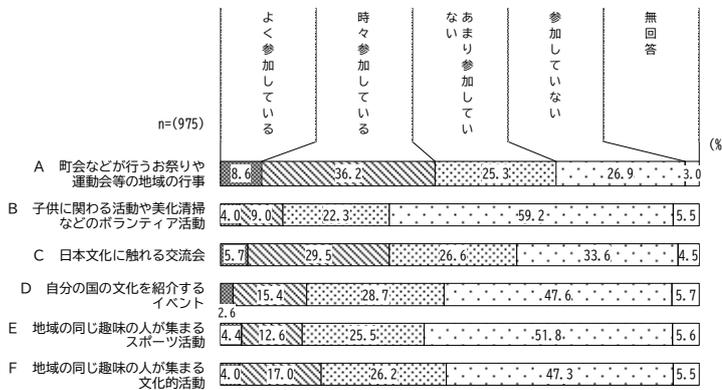
「日本の文化、生活習慣を理解する」（64.6%）が最も高く、次いで、「挨拶や言葉を交わす」（55.2%）となっている。



6 地域での活動について

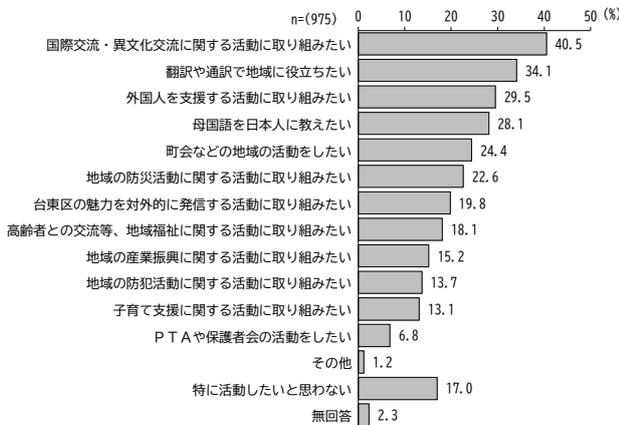
(1) 地域活動の参加状況 (単一回答)

「よく参加している」「時々参加している」の合計の割合は、「A 町会などが行うお祭りや運動会等の地域の行事」(44.8%)が最も高い。



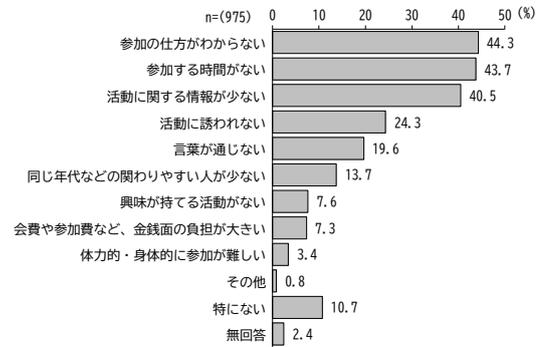
(2) 地域活動への今後の参加意向 (複数回答)

「国際交流・異文化交流に関する活動に取り組みたい」(40.5%)が最も高く、次いで、「翻訳や通訳で地域に役立ちたい」(34.1%)となっている。



(3) 自身が地域で活動するときの困りごと (複数回答)

「参加の仕方がわからない」(44.3%)が最も高く、次いで、「参加する時間がない」(43.7%)となっている。

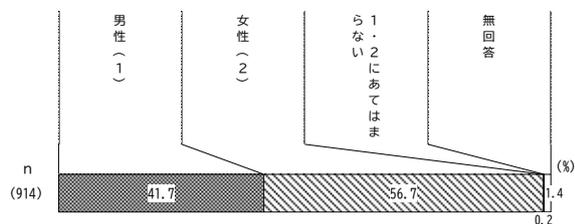


日本人意識調査の結果

1 回答者の属性

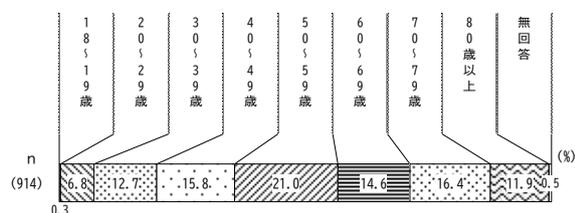
(1) 性別 (単一回答)

「男性」が41.7%、「女性」が56.7%となっている。



(2) 年齢 (単一回答)

「50~59歳」(21.0%)が最も高い。



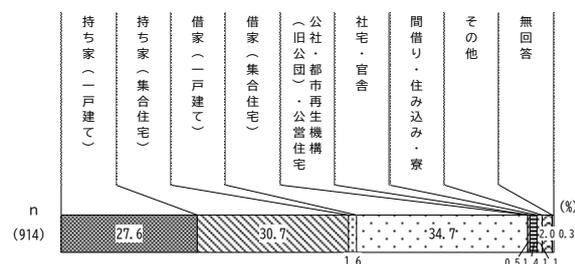
(3) 職業 (単一回答)

「会社勤務(一般正社員)」(34.9%)が最も高く、次いで、「無職」(17.5%)となっている。



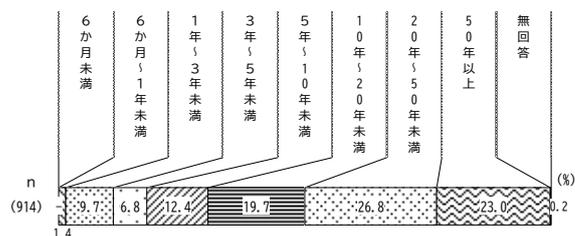
(4) 居住形態 (単一回答)

「借家(集合住宅)」(34.7%)が最も高く、次いで、「持ち家(集合住宅)」(30.7%)となっている。



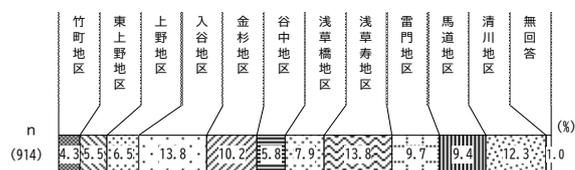
(5) 台東区での居住年数 (単一回答)

「20年~50年未満」(26.8%)が最も高い。



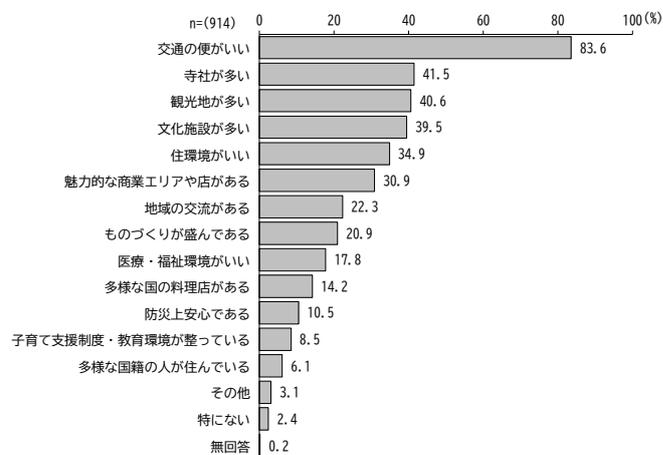
(6) 居住地域 (単一回答)

「入谷地区」「浅草寿地区」(共に13.8%)が最も高い。



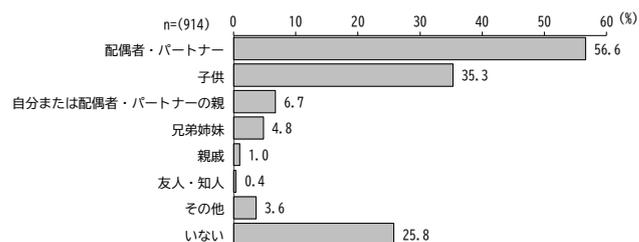
(7) 台東区の魅力 (複数回答)

「交通の便がいい」(83.6%)が最も高い。



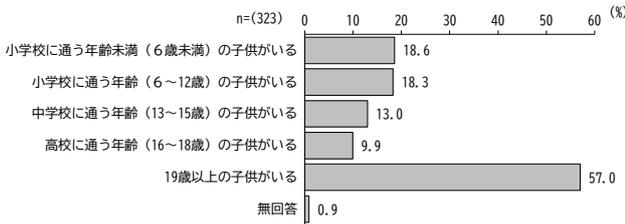
(8) 同居者 (複数回答)

「配偶者・パートナー」(56.6%)が最も高く、次いで、「子供」(35.3%)となっている。



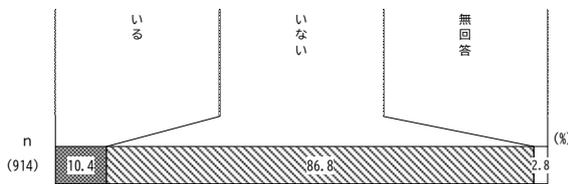
(9) 子供の年齢（複数回答）

「19歳以上の子供がいる」（57.0%）が最も高い。



(10) 外国人や外国にルーツを持つ人の有無（単一回答）

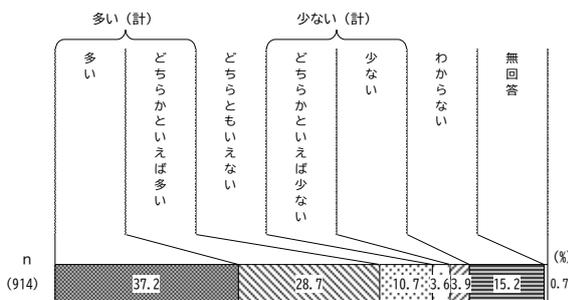
家族や親戚に、外国人や外国にルーツを持つ人が「いる」が10.4%となっている。



2 地域で暮らす外国人とのかかわりについて

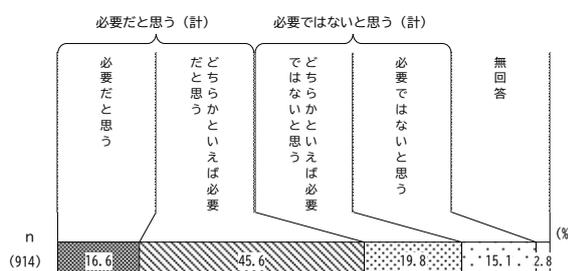
(1) 外国人が多いと感じるか（単一回答）

「多い」「どちらかといえば多い」の合計の割合は65.9%となっている。



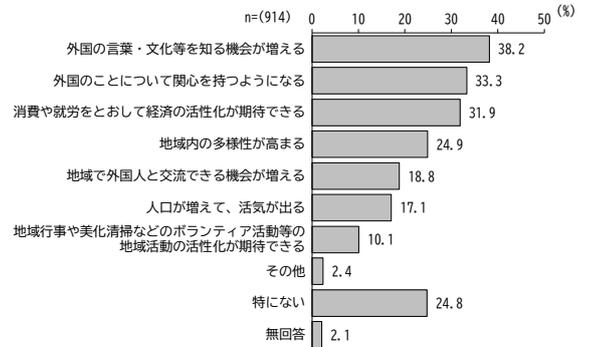
(2) 今後、地域で外国人が活躍することは必要か（単一回答）

「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」の合計の割合は62.2%となっている。



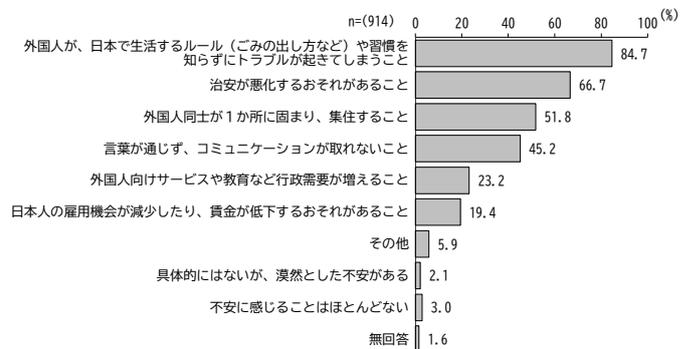
(3) 地域に暮らす外国人が増えることにより良くなること（複数回答）

「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」（38.2%）が最も高く、次いで、「外国のことに興味を持つようになる」（33.3%）となっている。



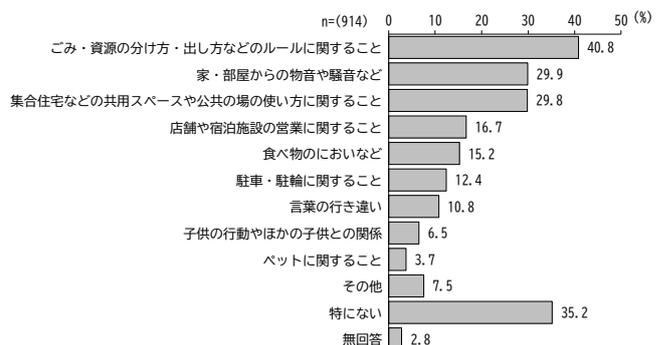
(4) 地域に暮らす外国人が増えることで心配や不安に感じる事（複数回答）

「外国人が、日本で生活するルール（ごみの出し方など）や習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと」（84.7%）が最も高く、次いで、「治安が悪化するおそれがあること」（66.7%）となっている。



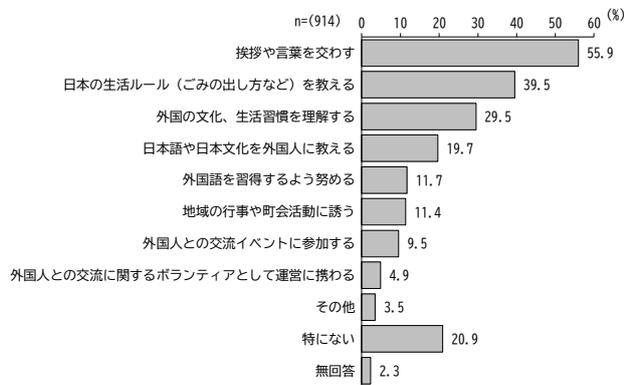
(5) 地域に暮らす外国人との関係で困った経験（複数回答）

「ごみ・資源の分け方・出し方などのルールに関する事」（40.8%）が最も高く、次いで、「家・部屋からの物音や騒音など」（29.9%）となっている。



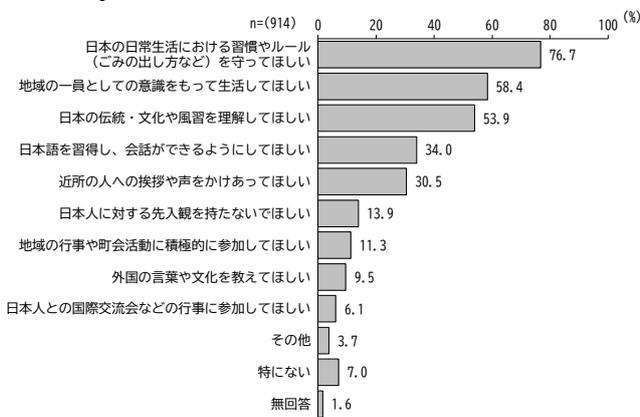
(6) 地域に暮らす外国人とのコミュニケーションの推進のためにできること（複数回答）

「挨拶や言葉を交わす」（55.9%）が最も高く、次いで、「日本の生活ルール（ごみの出し方など）を教える」（39.5%）となっている。



(7) 住民相互の理解のために、外国人に求めること（複数回答）

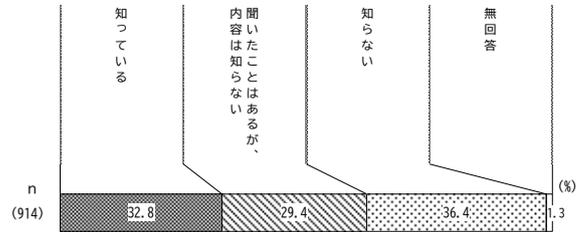
「日本の日常生活における習慣やルール（ごみの出し方など）を守ってほしい」（76.7%）が最も高く、次いで、「地域の一員としての意識をもって生活してほしい」（58.4%）となっている。



3 多文化共生のまちづくりについて

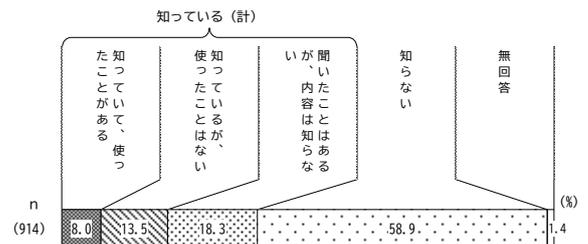
(1) 「多文化共生社会」という言葉の認知度（単一回答）

「知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた認知度は62.2%となっている。



(2) 「やさしい日本語」の認知度（単一回答）

「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた認知度は39.8%となっている。

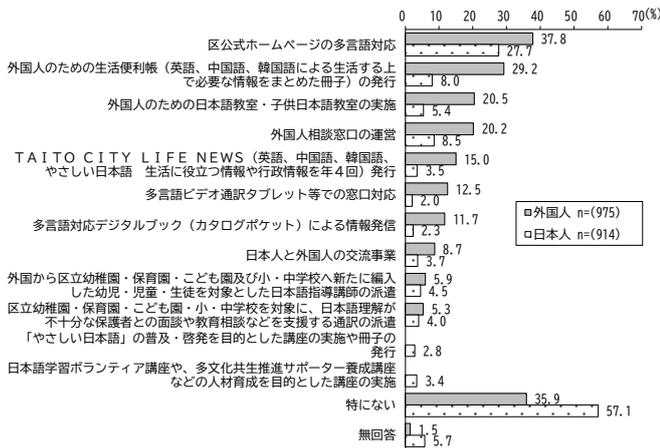


外国人・日本人 共通設問の比較

1 台東区の実施について

(1) 多文化共生に関するサービスや取組の認知度（複数回答）

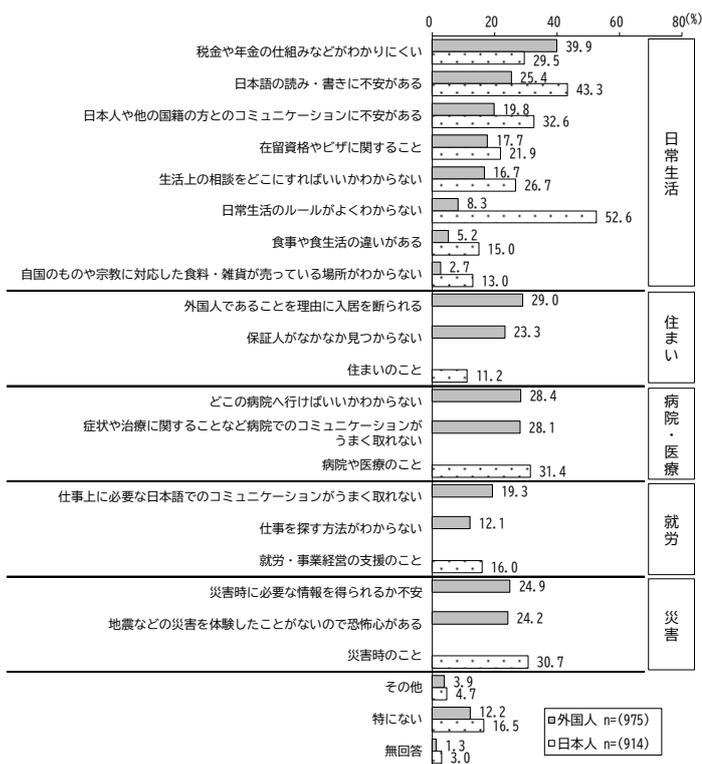
日本人は「特になし」(57.1%)が最も高いが、知っているサービスや取組としては、外国人・日本人ともに「区公式ホームページの多言語対応」が最も高い。



2 日頃の暮らしについて

(1) 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（複数回答）

外国人は「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(39.9%)、日本人は「日常生活のルールがよくわからない」(52.6%)が最も高い。

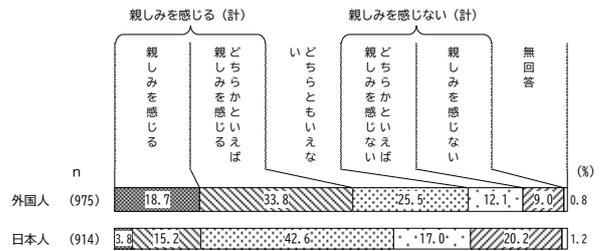


※「住まい」「病院・医療」「就労」「災害」については、外国人調査票の上位2項目のみを抜粋して掲載している。

3 地域に暮らす外国人と日本人とのかかわりについて

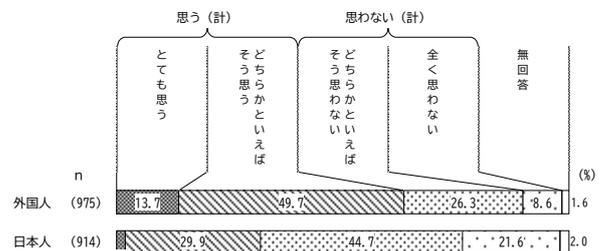
(1) 地域の外国人と日本人の相互の親しみ具合（単一回答）

「親しみを感じる」「どちらかといえば親しみを感じる」の合計は、外国人で52.5%に対し、日本人で19.0%となっている。



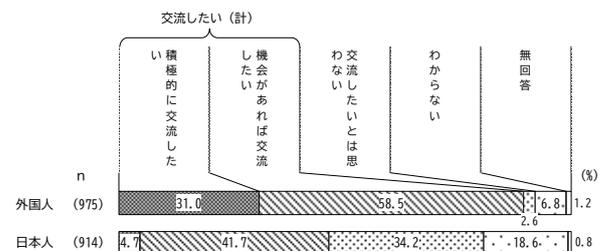
(2) 外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか（単一回答）

「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、外国人で63.4%に対し、日本人は31.8%となっている。



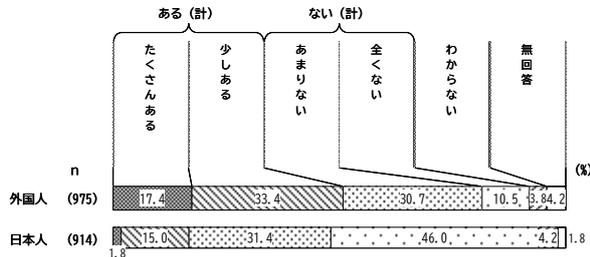
(3) 地域に暮らす外国人と日本人の交流意向（単一回答）

「積極的に交流したい」「機会があれば交流したい」の合計は、外国人で89.5%に対し、日本人で46.4%となっている。



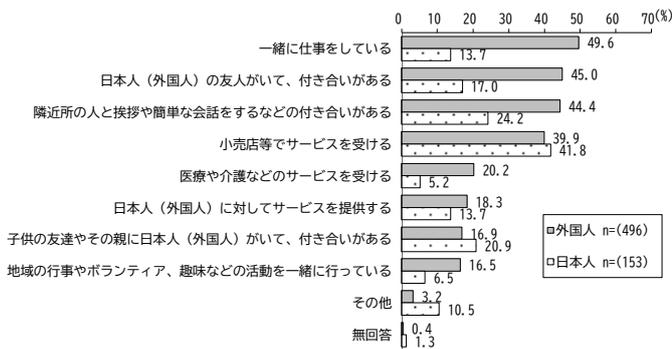
(4) 地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会（単一回答）

「たくさんある」「少しある」の合計は、外国人で50.8%に対し、日本人で16.8%となっている。



(5) 地域内で外国人と日本人がかかわる場面（複数回答）

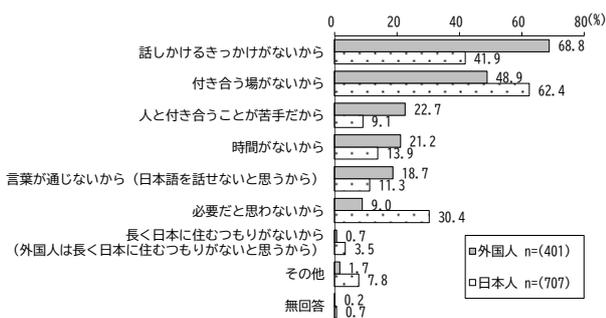
外国人は「一緒に仕事をしている」(49.6%)、日本人は「小売店等でサービスを受ける」(41.8%)が最も高い。



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所()として日本人調査票の文言を記載している。

(6) 地域内で外国人と日本人が交流する機会がない理由（複数回答）

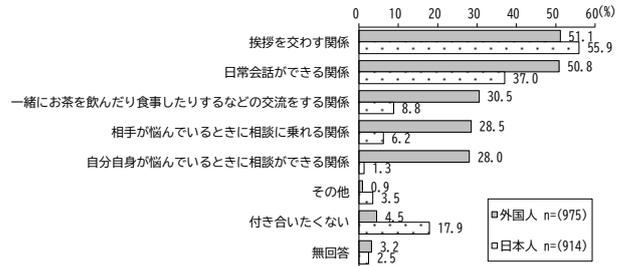
外国人は「話しかけるきっかけがないから」(68.8%)、日本人は「付き合い場がないから」(62.4%)が最も高い。



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所()として日本人調査票の文言を記載している。

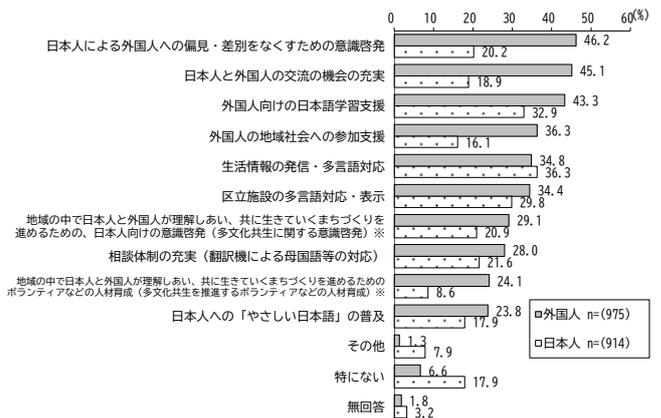
(7) 地域の外国人と日本人がどのようなつき合いをしていきたいか（複数回答）

外国人・日本人ともに「挨拶を交わす関係」が最も高い。



(8) 台東区が力を入れるべきだと思うこと（複数回答）

外国人は「日本人による外国人への偏見・差別をなくすための意識啓発」(46.2%)、日本人は「生活情報の発信・多言語対応」(36.3%)が最も高い。

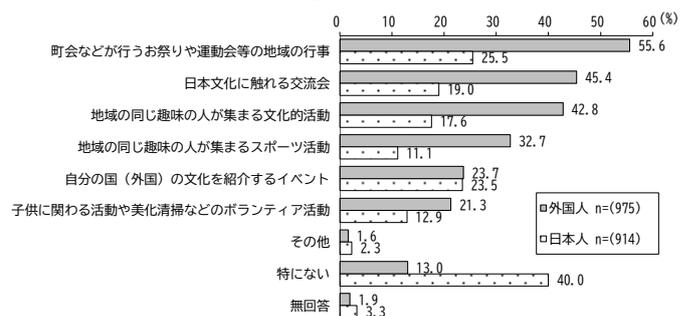


※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所()として日本人調査票の文言を記載している。

4 地域での活動について

(1) 今後参加したい地域の活動（複数回答）

日本人は「特にない」(40.0%)が最も高いが、今後参加したい地域の活動としては、外国人・日本人ともに「町会などが行うお祭りや運動会等の地域の行事」が最も高い。



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所()として日本人調査票の文言を記載している。

令和7年度 台東区多文化共生に関する意識調査報告書 【概要版】

発行年月：令和8年2月

発行：台東区総務部人権・多様性推進課

所在地：〒110-8615 台東区東上野4-5-6

電話：03-5246-1116

図書登録：令和7年度 登録第66号